

2024年 MMC 中小企業診断士

第2次試験合格対策 Se244

第二次試験事例IV

State examination 244

財務・会計を中心とした
経営の戦略及び管理に関する事例

速報解答

MMC

Master of management corporation

模範解答

第1問(設問1)(配点10点)

| | (a) | (b) |
|---|-----------|----------|
| ① | 有形固定資産回転率 | 11.26(回) |
| ② | 売上高総利益率 | 59.01(%) |
| ③ | 自己資本比率 | 14.15(%) |

第1問(設問2)(配点15点)

D社は、①店舗運営の効率化などで投資効率は高いが、②飲食事業の収益低迷と一貫体制の構築・維持コストの負担で収益性は低く、③過少な内部留保で資本構成は脆弱である。

- ・優れている指標(①)について、固定資産回転率(7.24(回))も可。
- ・劣っている指標(②)について、売上高営業利益率(1.01(%))、売上高経常利益率(3.25(%))でも合格点を確保できる。
- ・劣っている指標(③)について、負債比率(606.94(%))も可。

第2問(設問1)(配点10点)

| | |
|-----|---|
| (a) | 6,500 (袋) |
| (b) | 240 (袋) |
| (c) | 2,670,800 (円) |
| (d) | <ul style="list-style-type: none"> ・営業利益 $1,220X + 1,420Y - 5,600,000$ が最大となるX社向けの生産数量XとY社向けの生産数量Yは以下の4式の範囲内に存在する。 $X + 2.5Y \leq 10,000$、$2X + 2.5Y \leq 13,600$、$0 \leq X \leq 6,500$、$0 \leq Y \leq 4,200$ ・$X = 6,500$、$Y = 240$の場合に営業利益が最大となる。 ・営業利益 = X社向けの限界利益 $1,220 \times 6,500$ $+ Y$社向けの限界利益 $1,420 \times 240 - \text{固定費 } 5,600,000 = 2,670,800$ $2,670,800$(円) |

第2問(設問2)(配点10点)

| | |
|-----|---|
| (a) | 4,905 (円) |
| (b) | <ul style="list-style-type: none"> ・生産数量Xと生産数量Yは次の4式の範囲内である。 $X + 2.5Y \leq 10,000$、$2X + 2.5Y \leq 13,600$、$0 \leq X \leq 6,500$、$2,400 \leq Y \leq 4,200$ ・限界利益が最大となる生産数量は $X = 3,800$、$Y = 2,400$ である。 ・$X = 3,800$、$Y = 2,400$ の場合の営業利益、Y社向けの限界利益P $1,220 \times 3,800 + 2,400P - 5,600,000 \geq 1,220 \times 6,500 + 240P - 5,600,000$ $\therefore P \geq 1,525$ となる。 Y社向けの販売価格 = 変動費 $3,380$ + 限界利益 $1,525 = 4,905$ $4,905$(円) |

第 3 問(設問 1)(配点 10 点)

| | | | |
|-----|---------|-----|---------|
| (a) | 69 (万円) | (b) | 74 (万円) |
|-----|---------|-----|---------|

第 3 問(設問 2)(配点 10 点)

| | |
|-----|---|
| (a) | 51.14 (万円) |
| (b) | (初年度期首) 投資額 = 新機械投資 - 540 + 旧機械売却 70 = -470 (初年度期末) C F = 69、(2 年度期末) C F = 74、 (3 年度期末～9 年度期末) C F = 89、(9 年度期末) 運転資本 C F = 40 上記の C F の現在価値の合計である正味現在価値を求める。 正味現在価値 = -470 + 69 × 0.917 + 74 × 0.842 + 89 × 5.033 × 0.842 + 40 × 0.460 = 51.143954 → <u>51.14</u> <u>51.14 (万円)</u> |

第 3 問(設問 2)(配点 10 点)

| | |
|-----|---|
| (a) | 18.96 (万円) |
| (b) | 実行すべきで <u>ある</u> ・ ない |
| (c) | ・ 営業利益が減少する場合 (発生確率 40%) の正味現在価値 正味現在価値 = -470 + 62.7 × 0.917 + 59.3 × 0.842 + 74.3 × 5.033 × 0.842 + 40 × 0.460 = -29.3060002 ・ 営業利益が予測通りの場合 (発生確率 60%) の正味現在価値 正味現在価値 = 51.143954 ・ 初年度期首の市場調査の結果を基にした期待正味現在価値 [予測通り] 0.6 × 51.143954 + [減少する場合] 0.4 × (-29.3060002) = 18.96397232 → <u>18.96</u> <u>18.96 (万円)</u> |

※ 市場調査の費用は試験的導入の結果にかかわらず支出した埋没原価であり、試験的導入の結果には影響を及ぼさない。

第 4 問(設問 1)(配点 15 点)

加工事業部は内部取引と外部顧客への販売を行うので、市場価格の設定が望ましい。原価に一定の利潤を上乗せする価格設定では各事業部の業績を適切に評価することは難しい。

- 事業部で管理できない固定費を含む全部原価の採用、在庫となる当期製造費用が反映されない全部原価の採用など、妥当性がある問題点の指摘であれば合格点を確保できる。

第 4 問(設問 2)(配点 10 点)

事業部長は投資の意思決定権限を持たないので R O I などの指標で評価せず、管理可能利益など権限に見合う指標での評価に留意する

